御　挨　拶

まだ記憶に新しい，昨年の「８月豪雨」。大規模な土砂災害が発生した広島市では，亡くなられた方が74人，重軽傷を負われた方が44人にも上り，土砂災害による人的被害としては過去30年間で最悪の大変痛ましいものとなりました。

近年，こうした予想を超える規模の自然災害が，各地でこれまでにも増して頻発しているように感じられます。しかし，災害に対しては"予想を超える"ではなく常に"予想の範囲内"となるよう，日頃から万全の備えを講じることが極めて重要です。

そのような中，本市では橋りょうや建築物の耐震化，緊急輸送道路の防災対策，避難体制の整備などに全力投球。職員の緊急配置や応召体制の見直しにも取り組みました。

また，2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催などを見据え，市民の皆様はもちろん京都へお越しになるお客様の安心安全もしっかりと確保するため，京都府警と連携して「世界一安心安全・おもてなしのまち京都　市民ぐるみ推進運動」を展開しているところです。

そして，これら防災・減災の取組を進めるうえで大きな力となっているのが，地元消防団や自主防災組織をはじめとする市民の皆様の御活動です。冒頭に記した「８月豪雨」は京都でも猛威を振るいましたが，「自分たちのまちは自分たちで守る」との高いお志の下，多くの皆様に献身的なお取組を重ねていただいたおかげで大きな被害を免れました。誠にありがたく，心強く思っています。

これからも，市民，関係者の皆様と共に力を合わせて，まちの防災力に更なる磨きをかけ，災害に強く誰もが安心して過ごせる「安心都市・京都」の実現へと着実に前進してまいりたいと存じます。引き続き皆様の御支援，御協力をお願い申し上げます。

京都市長　門川　大作

御　挨　拶

昨年の火災件数は236件となり，２年連続で火災を減少させることができました。しかし，放火による火災は増加し，昨年８月には伏見区内で犠牲者を出す連続放火事案も発生しました。そのため，今年度は，地域団体や関係機関との連携を更に強化し，ハードとソフトの両面にわたる放火防止対策に全力で取り組むとともに，きめ細やかな焼死者防止対策にも，一層取り組んでまいります。

さて，本年は，阪神・淡路大震災から20年を経過した節目の年であり，本市においても，この震災を教訓として，地域防災力や消防力の充実強化をはじめとした，様々な取組を進めてまいりました。しかし，近年，全国各地で集中豪雨や土砂災害などによる被害が相次いで発生し，平成25年の台風18号や昨年の８月豪雨では，本市も大きな被害に見舞われました。これらを教訓として，「自主防災会防災行動マニュアル策定のためのガイドライン」を作成し，今年度から，市内の自主防災会において，地域特性を反映させた災害ごと(地震・水災害・土砂災害)の「防災行動マニュアル」の策定を進め，いざという時に自ら考え行動できる，災害に強い地域づくりを推進することとしています。さらに，消防活動総合センターに水災害対応訓練施設を設置するほか，都市型水害対策車両を整備し，水災害への対応力を一層強化してまいります。

本年６月には，最新鋭の機能を備えた新消防指令システムと災害現場で救命活動の拠点となる高度救急救護車の本格運用を開始しました。これらも最大限に活用し，今後も，あらゆる災害に的確果敢に立ち向かう「力強い消防」と，市民の皆様と共に防火防災に取り組む「地域密着型の消防」により，災害に強く安心して住み続けられる「安心都市・京都」の実現に，全力で取り組んでまいりますので，更なる御支援・御協力をお願い申し上げます。

京都市消防局長　杉本栄一